

公益財団法人テクノエイド協会 殿

(要望者)

〒136-8670

住所 東京都江東区東砂2-14-5

事業者名	パラマウントベッド株式会社
担当者所属	技術開発本部 開発部 マットレス開発課
担当者名	大野 健太
電話番号	03-3648-1199
電子メールアドレス	k.ohno@paramount.co.jp

介護ロボット等モニター調査事業 要望書

貴法人が福祉用具・介護ロボット実用化支援等一式の一環として行う「介護ロボット等モニター調査事業」について、下記の書類を添付して要望します。

記

1. 介護ロボット等モニター調査事業 計画概要書
2. 会社概要 (任意様式)
3. これまでの介護ロボット等に関わる開発実績がわかる書類 (任意様式)
※) 実績がない場合は、提出不要

(本書類の取扱いと留意事項について)

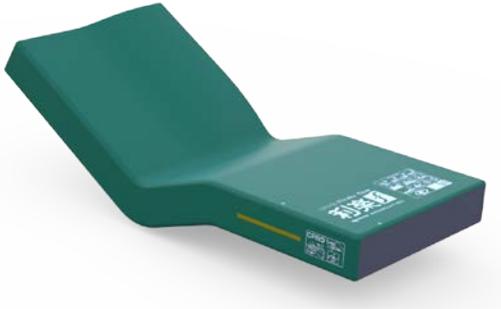
- ご提出いただく「介護ロボット等モニター調査事業 計画概要書」は、介護施設等とマッチングする際、当協会のホームページを通じて、介護施設等へ公開いたします。
従って、記載する内容は、公開可能な範囲で差し支えありませんが、具体的な記載がない場合には、マッチング先が現れない場合もあり得ることをご了承ください。
- 適切なお協力がいただける介護施設等とマッチングするためにも、記載内容は技術的な事に偏らず理解しやすいものとしてください。
- 当協会では記載内容や本事業に関わる各種の相談を承っております。
- 案件によっては、マッチング先が現れない場合もあり得ることをご留意ください。

介護ロボット等モニター調査事業 計画概要書

1. 申請者（企業）の概要等

企業名	パラマウントベッド株式会社	
担当者名	大野 健太	
担当者連絡先	住所	〒136-8670 東京都江東区東砂2-14-5
	電話	03-3648-1199
	電子メールアドレス	k.ohno@paramount.co.jp
主たる業種	1. 医療・介護用ベッド等および什器備品の製造、販売 2. 医療福祉機器および家具などの製造、販売 3. 上記品目に関する輸出入、リース、レンタル、および保守・修理	
主要な製品	医療・介護用ベッド、マットレス、備品	
希望する施設等の種類や職種等 希望施設に☑を入れてください 複数選択可	<input checked="" type="checkbox"/> 介護老人福祉施設：特別養護老人ホーム <input type="checkbox"/> 介護老人保健施設：老人保健施設 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護：グループホーム <input checked="" type="checkbox"/> 特定施設入居者生活介護：有料老人ホーム、軽費老人ホーム、養護老人ホーム <input checked="" type="checkbox"/> 居宅介護サービス：訪問介護、看護、リハ、福祉用具貸与サービス事業者 等 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関：病院、診療所、リハビリテーションセンター 等 <input type="checkbox"/> その他：（ ）	
その他の希望		

2. 申請機器の概要（可能な限り詳しくご記入ください。）

機器の名称（仮称）	体位変換エアマットレス ここちあ利楽flow（こちありらくふるー）
機器の概要 (写真を添付すること)	<u>想定する使用者、使用場面</u> <使用者像> ・寝たきりで、自力での寝返りができず、床ずれリスクのある要介護者 <使用環境> ・ベッド上
	<u>機能と使用方法、有用性</u>  こちあ利楽flow <機能> ・使用される方がエアマットレスに寝ると自動でその方の体重、体形、寝姿勢（背角度）に適したマットレスのかたさを常時算出・設定します（自動かたさ設定機能）。 ・背部と臀部の両側に計4か所配された体位変換エアセルが15分ごとに1か所ずつ膨張収縮をして小枕法に基づく小さい体位変換をゆっくりと行うことで、寝心地を悪化さ

せずに体圧分布を変化させます（スモールフロー機能）。

・背上げ30°～45°でも体位変換機能を使用できるため、医療機関においては、背上げによる人工呼吸器関連肺炎（VAP）の対策を行いながら、自動体位変換による床ずれ対策を行えます。



・マットレス内部に組み込まれた寝位置センサーが使用される方の寝位置を検知し、マットレスの端に寄って寝た場合には、寝ている側の体位変換エアセルの動作を停止し、寝ていない側の体位変換エアセルだけで体位変換を行う設定に自動で切り替わることで、体位変換による転落やズレのリスクを軽減します（ズレ・転落防止機能）。



・30度以上背上げををすると、体位変換用のエアセルが4か所すべて膨らんで背上げ時の体幹を保持するとともに接触面積を増やして体圧を分散します（バックサポート機能）。



・使用される方が起き上がりや離床の動作を行うと、マットレス内部に組み込まれた寝位置センサーが動作を検知し、体位変換エアセルを収縮させるとともにマットレス全体を通常のかたさの4倍のかたさに設定し、安定した平面を作り出します。また、使用される方が再びエアマットレスに寝ると自動で適切なかたさに柔らかくなり、体位変換が再開します（自動しっかり機能）。



<使用方法>

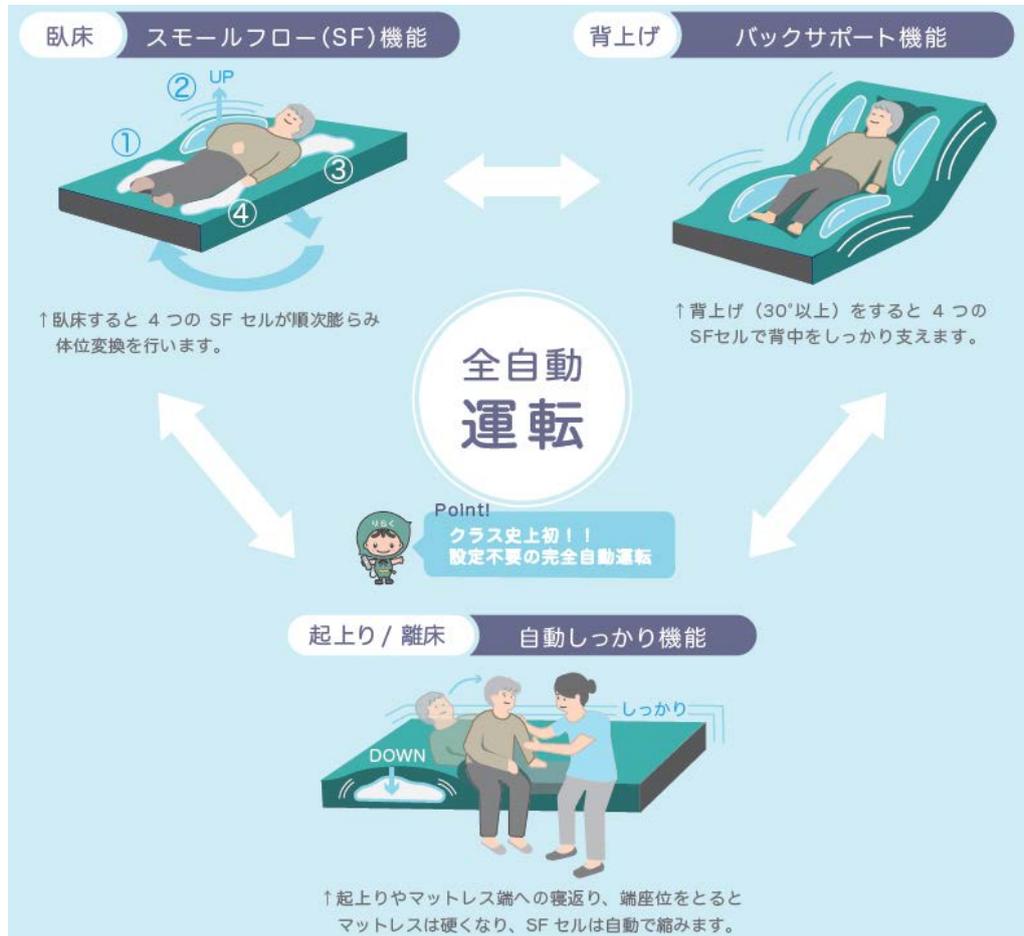
・設置

ベッド上に本製品を敷き、マットレスカバーのファスナーを開けて中にポンプを設置します。ポンプにエアセルのカプリング、操作パネル、寝位置センサー、ACアダプタ

一を接続します。ACアダプターの電源ケーブルをコンセントに差し込むと、自動で空気が入り、約10分で膨らみます。

・使用方法

エアマットレスが膨らんだら、あとは上に寝ていただくだけで5分～15分かけて適したかたさに自動で設定され、体位変換が自動で始まります（スモールフロー機能）。背を上げれば、4つの体位変換エアセルが全て膨らみ体幹保持を行い（バックサポート機能）、また、使用される方が起き上がりや離床の動作をすればマットレス全体が自動で安定した平面となります（自動しっかり機能）。使用される方が横になられると再び適したかたさになり体位変換が再開します。これらの機能に設定や操作は不要です。



<有用性>

- ・体位変換用エアマットレス特有の細かい設定が不要で、設置して寝るだけで各機能が自動で使用できます。
- ・自動で適したかたさに設定されるため、在宅介護環境のような慣れない方が使用される場合でも、設定ミスによる体圧の悪化や、底着きを防ぎます。また、緩和ケア病棟など体重減少がネガティブな情報となる終末期で体重を計測されない場合でも、常時適したかたさが計測・設定されます。
- ・各機能が自動で動作するため、操作の手間が削減され、介護業務を阻害しません。また、設定・操作箇所に触れることなく、衛生的・安全に使用できます。

類似する機器との相違

- ・寝位置センサーによって転落やズレを防止
- ・かたさ自動設定機能により、常時適したかたさに自動設定
- ・睡眠を阻害しない体位変換方式
- ・設定変更やそのための体重測定、また各種操作の習得が不要
- ・各機能が自動で動作するため、設定・操作の手間が削減

当該機器と介護業務との関連性

- ・自力での寝返りができない床ずれリスクの高い方に体位変換機能を用いることで体への継続的な圧迫を防ぎ、床ずれリスクを軽減します。

	<ul style="list-style-type: none"> ・従来のマットレスを使う際の各種設定やそのための体重測定、また背上げ時や移乗時のマットレス操作を不要にし、介護業務の工数や操作方法の習得の手間を削減します。
現在の開発状況と課題	<p><u>機器に関するリスクアセスメント</u>（性能安全と利用安全の確保対策）</p> <p>※アセスメント結果を添付して下さい。</p> <p><社内外でのテストの実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・電氣的・機械的な安全性に関する試験を実施して合格済み JIST9256-3、JIS-T0601-1、KOS-T0601-1-2等から、関連項目を参照し、評価を実施 ・社内でのリスクアセスメントを実施・対応済み
	<p><u>社内や社外モニター調査の実績</u></p> <p>※実績ありの場合は、その結果を添付して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年5月から関東近郊の急性期病院にて3か月の実使用のモニター調査を実施（現在も継続中）。延べ20人以上の患者に使用して症状を悪化させる等の問題がなく、複数の患者で床ずれの改善が見られました。 ・どうしても寝返りをさせられない患者に対して本製品の体位変換機能を用いて2週間以上床ずれの悪化が見られませんでした。 ・操作不要の全自動運転により看護師の負担がなく楽になったというコメントをいただきました。
	<p><u>開発に関する当面の課題</u></p> <p>開発完了済み。2020年10月1日発売予定。</p>

3. モニター調査の概要

1. 調査のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・本製品を用いて、寝返りのできない床ずれリスクのある方が常時適切なかたさに設定された状態で体位変換が行われることで、床ずれの発生・悪化なく、介護業務の軽減につながるかを調査したい。 ・本製品を用いて、エアマットレスの設定や、それに伴う体重測定、状況毎の各種操作が不要になることで、どれだけ介護業務工数が削減されるのかを調査したい。また、マットレスの自動化により、エアマットレス使用に対するハードルを下げられたかを調査したい。
2. 調査概要	<p>1) 調査対象：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設における本製品の使用者の床ずれ状況、睡眠状況 ・施設における本製品を用いた場合の介護業務工数状況 <p>2) 調査したい場面、場所：</p> <p>医療機関、高齢者施設（特養、有料老人ホーム）、在宅訪問看護施設など</p> <p>3) 対象者：寝たきり高齢者（日常生活自立度判定基準C）10～15名 介護者 10～15名</p> <p>4) 調査期間（日数）：3か月</p> <p>5) 機器の台数：5台</p>

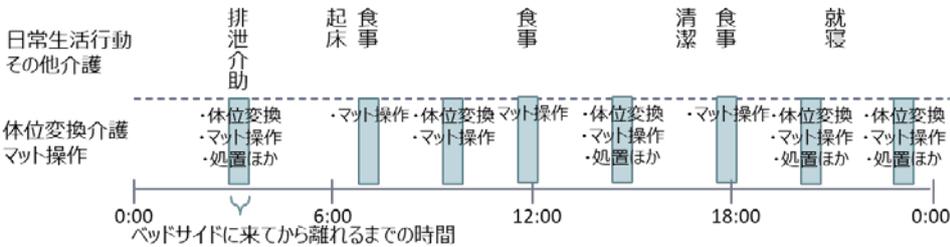
4. モニター調査の実施手法（協力施設等へお願いしたい内容）

※本書のP8～9を参考にモニター調査の具体的な実施方法を記載してください。

注）5つの項目全てを行う必要はありません。（実施しない項目は「特になし」としてください。）

※モニター調査検討委員会等の審議により採択された場合には、当協会及び専門家によるアドバイスをを行います。

1. 利用対象者の適用範囲に関すること	特になし
---------------------	------

2. 利用環境の条件 に関すること	特になし
3. 機器の利用効果 に関すること	<p>【調査手法】</p> <p>■観察法 ■インタビュー法 ■質問紙法 ■その他：</p> <p>【想定する調査方法】</p> <p>◆試験方法</p> <p>人による体位変換介助と、本製品の自動体位変換機能の自己対照試験（各期間2週間ずつ）</p> <p>➢ コントロール期間：介護者による通常の体位変換介助</p> <p>➢ 実験期間：マットレスによる自動体位変換（介護者は頭部・四肢の位置補正のみ）</p> <p>◆測定項目</p> <p>(1) 床ずれ対策の効果：週2回以上の皮膚状態観察（DESIGN-R®のDepth深さの項目などで評価）</p> <p>※皮膚状態の評価が難しい場合は床ずれの写真を撮って弊社で確認</p> <p>※開始時より床ずれの評価状況が1段階悪化した時点（Depth深さの項目d0“皮膚損傷・発赤なし”→d1“持続する発赤”など）で褥瘡アセスメント及び悪化要因への対策を実施</p> <p>※開始時より床ずれの評価状況が2段階悪化した時点で同使用者の評価を中止</p> <p>※開始時と中止時・終了時にはブレイデンスケール等による褥瘡アセスメント実施</p> <p>(2) 介護業務の負担軽減効果、業務工数削減効果：</p> <p>①精神的負担…アンケート評価 （1=負担ではない、2=ほとんど負担ではない、3=どちらでもない、4=負担である、5=とても負担である）</p> <p>②肉体的負担…腕時計型活動量計による活動量の比較</p> <p>③業務工数…日常生活行動の時間記録 （時間記録例）※記録用紙のフォーマットは施設と協議</p>  <p>(3) 被介護者の睡眠・寝心地改善効果：</p> <p>①覚醒状態…中途覚醒回数・時間の測定（弊社センサ『眠りSCAN』を用いて体動測定）</p> <p>②緊張状態…心拍数の測定（弊社センサ『眠りSCAN』を用いて測定）</p> <p>③寝心地…寝心地、痛みの有無について観察法、インタビュー法などにより調査</p>
4. 機器の使い勝手 に関すること	<p>【調査手法】</p> <p>□観察法 □インタビュー法 ■質問紙法 □その他：</p> <p>【想定する調査方法】</p> <p>◆試験方法</p> <p>従来使用のエアマットレスと本製品の自己対照試験</p> <p>➢ コントロール群：従来使用のマットレス</p> <p>➢ 実験群：本製品</p> <p>◆測定項目</p> <p>下記(1)～(3)について、導入説明直後（従来製品、本製品）と2週間使用後にアンケート</p>

	<p>一ト評価実施（1=難しい、2=やや難しい、3=従来機種と大差ない、4=おおむね容易、5=容易）</p> <p>(1) 操作のしやすさ</p> <p>(2) 機能の理解のしやすさ</p> <p>(3) 設置のしやすさ</p>
5. 介護現場での利用の継続性に関すること	<p>【調査手法】</p> <p><input type="checkbox"/>観察法 <input type="checkbox"/>インタビュー法 <input checked="" type="checkbox"/>質問紙法 <input type="checkbox"/>その他：</p> <p>【想定する調査方法】</p> <p>① 本製品を継続して使いたいか？</p> <p>② ①の理由</p> <p>上記①②について、本製品2週間使用後にアンケート調査。</p>
6. その他	特になし

(注) 必要に応じて記載欄を増やしてください。

会社情報

会社概要

パラマウントベッドの会社概要をご紹介します。

トップメッセージ

当社グループは1947年（昭和22年）に創業。病院用ベッドの専門メーカーとしてスタートし、その後、高齢化の進展を背景として、高齢者施設や在宅介護分野にも事業領域を拡大しながら、さまざまな製品・サービスを開発してまいりました。近年では、医療・介護用ベッド等の製造、販売事業をはじめ、ベッド等の点検・メンテナンス事業、福祉用具のレンタル卸事業など、国内外においてヘルスケア分野を中心とした事業の多角化に取り組んでおります。今後も「as human, for human（人として、人のために）」を企業スローガンに、お客様満足度および企業価値のさらなる向上を目指し、また、事業活動等を通じて社会に貢献してまいりたいと考えております。あたたかいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 木村 友彦

企業理念：「先進の技術と優しさで、快適なヘルスケア環境を創造します」

ステートメント：「as human, for human（人として、人のために）」

企業概要

社名	パラマウントベッド株式会社
英名	PARAMOUNT BED CO., LTD.
本社	〒136-8670 東京都江東区東砂2丁目14番5号
電話	(03) 3648-1111（大代表）
創業	1947年5月
設立	1950年5月
資本金	65億9,132万円
代表者	代表取締役社長 木村友彦
主な事業内容	1. 医療・介護用ベッド等および什器備品の製造、販売 2. 医療福祉機器および家具等の製造、販売 3. 上記品目に関する輸出入、リース、レンタル、および保守・修理
主な関連会社	PT. パラマウントベッド インドネシア 八楽夢床業(中国)有限公司 パラマウントベッド・タイランド
従業員数	914名（2020年3月31日現在）
アクセス	お車をご利用の方 【主要なアクセス方法】 新大橋方面より新大橋通りを東へ大島8丁目交差点を右折（約580m）

公共交通機関をご利用の方

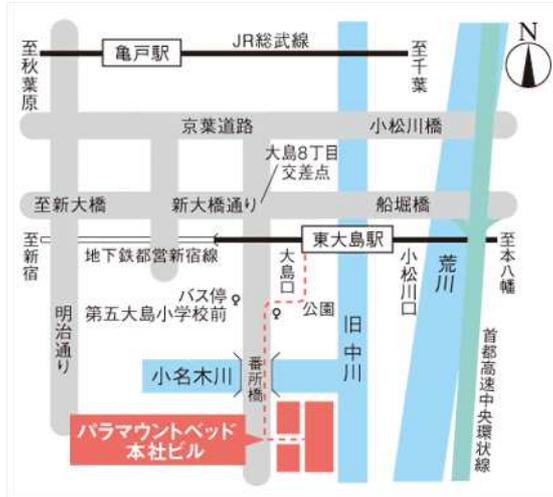
【JRからのバスでのアクセス方法】

総武線「亀戸駅」下車。北口ロータリーから「3番のりば24系統『東砂六丁目行き（大島駅前経由）』」乗車（約20分）

「第5大島小学校前」下車後、徒歩（約2分）

【地下鉄からのアクセス方法】

都営新宿線「東大島駅」下車。大島口より徒歩（約8分）



[Google Mapはこちら](#)



TOP > 会社情報 > 会社沿革

会社情報

会社沿革

パラマウントベッドの歴史をご紹介します。

年表

1940年代

1947年 5月 木村隆輔、個人経営の「木村寝台製作所」を創業、病院用ベッドの生産を開始

1950年代

1950年 5月 資本金200千円をもって木村寝台工業株式会社を設立、ブランド名を「パラマウントベッド」に決定

1955年 7月 病院用ギャッチベッドを開発

1960年代

1961年 5月 本社部門を現所在地に移転

1962年 4月 我が国初の電動ベッド「KA-45」を開発、販売

1966年 5月 千葉工場を建設

1970年代

1970年 2月 松尾工場を建設

1980年代

1980年 6月 自動採尿器「スカットクリーン」を開発、販売

1983年 12月 在宅ケアベッド「KQ-100（アウラ電動ベッド）」を開発、販売

1987年 3月 パラマウントベッド株式会社に商号変更

12月 株式を東京店頭市場に登録

1990年代

1991年 3月 財団法人「木村看護教育振興財団」を設立

4月 木村隆輔 会長、木村憲司 社長就任

1993年 10月 在宅ケアベッド「楽匠（らくしょう）」を開発、販売

12月 株式を東京証券取引所市場第二部に上場

1995年 9月 海外現地法人「PT.パラマウントベッド インドネシア」を設立

1996年 9月 株式を東京証券取引所市場第一部に上場

1997年 4月 在宅ケアベッド「キューマアウラベッド」を開発、販売

1999年 5月 ISO9001 認証取得

10月 在宅ケアベッド「アウラ21」シリーズを開発、販売

1940年代 PARAMOUNT BED パラマウントベッド		会社情報	製品情報	知る・学ぶ	カタログ・取扱説明書	ショールーム	お問い合わせ
2000年～							
2001年	2月		病院・高齢者施設向けベッド「カリスト」シリーズを開発、販売				
2002年	1月		上海事務所を設置				
	7月		「パラテクノ株式会社」を設立				
2003年	5月		“上質な眠りと健康”を提案する新ブランド「INTIME（インタイム）」を設立				
	11月		在宅ケアベッド新「楽匠」を開発、販売				
2004年	3月		海外現地法人「八楽夢床業（中国）有限公司」を設立				
2006年	11月		ISO13485 認証取得				
2007年	10月		「サンネットワーク株式会社（現 パラマウントケアサービス株式会社）」を子会社化				
2008年	5月		千葉工場に新一貫生産ラインを稼働				
2009年	4月		木村憲司 会長、木村恭介 社長就任				
			在宅ケアベッド「楽匠Sシリーズ」を開発、販売				
	5月		睡眠管理システム「眠りSCAN」を開発、販売				
	11月		“睡眠改善”をサポートする新ブランド「スマートスリープ」を発足				
2010年	5月		高機能エアマットレス「ここちあ」を開発、販売				
	9月		トバイ駐在員事務所を設置				
	10月		海外現地法人「パラマウントベッド タイランド」を設立				
2011年	10月		持株会社体制へ移行				
2012年	2月		海外現地法人「パラマウントベッド アジア パシフィック」を設立				
	8月		海外現地法人「パラマウントベッド インディア」を設立				
2013年	6月		海外現地法人「パラマウントベッド メキシコ」を設立				
	7月		海外現地法人「パラマウントベッド ベトナム」を設立				
2014年	1月		在宅ケアベッド「楽匠Zシリーズ」を開発、販売				
	7月		海外現地法人「パラマウントベッド ブラジル」営業開始				
	10月		床ずれ防止エアマットレス「ここちあ結起（ゆうき）」を開発、発売				
2015年	10月		病院向けベッド「メーティスPROシリーズ」を開発、販売				
	11月		製品安全対策優良企業表彰において「商務流通保安審議官賞」を受賞				
2016年	3月		超低床在宅ケアベッド「楽匠FeeZシリーズ」を開発、発売				
	10月		一般家庭向け電動ベッド「INTIME1000シリーズ」を開発、発売				
2017年	12月		眠りの情報発信拠点「眠りギャラリー TOKYO」がオープン				
2018年	1月		医療・介護施設向けベッド「エスパシアシリーズ」を開発、発売				
	1月		床ずれ防止マットレス「エバークラウド」を開発、発売				
	11月		全自動運転の床ずれ防止エアマットレス「ここちあ利楽」を開発、発売				
2019年	3月		新ブランド「Active Sleep」から「Active Sleep BED」を開発、発売				
	7月		一般家庭向け電動ベッド「INTIME2000i」を開発、発売				
	12月		ICU向け低床電動ベッド「アリウスシリーズ」を開発、発売				

1940年代
PARAMOUNT BED

2020年

パラマウントベッド

4月

会社情報

製品情報

知る・学ぶ

カタログ・取扱説明書

ショールーム

お問い合わせ

木村恭介 会長、木村友彦 社長就任

1940年代

創業者木村隆輔とパラマウントベッド

パラマウントベッドの創業者木村隆輔は1918年3月、東京の下町で三代つづく酒屋の長男として誕生。うちつづく戦争で家業は廃業やむなさに至りましたが、終戦後、復職した地元の機械メーカーで戦時中に供出させられたままの金属製品の再生ビジネスに取り組みました。パラマウントベッドの歴史は1947年5月、木村隆輔が木村寝台製作所を創業し、こうした再生ビジネスのひとつとして、病院用ベッドの再生を手がけたことに始まります。

当時の病院用ベッド業界は、戦前から需給関係が固定していたこともあり、新味も進歩もなく閉鎖的であったといえます。それだけに木村はアイデアを駆使して優れた製品を開発し安く迅速に供給すれば成功できると考えました。日赤中央病院（現日本赤十字社医療センター）からの新品フレームの大口注文の獲得を機に、病院用ベッドの製造が事業として十分やっていると自信を得て、1950年5月、木村寝台工業株式会社を設立すると同時に、ブランド名を「パラマウントベッド」と決定しました。



創業時の木村隆輔

1950年代

結核病床の整備とギャッチベッドの開発

結核は、当時「亡国病」ともいわれ、1950年までは常に死亡率の1位を占めていました。死亡率のピークを越えた1955年度でも、結核の医療費は国民医療費の4分の1、入院医療費の2分の1を占めており、こうした中において、結核病床は1947年の53千床から1957年の261千床へと約5倍に整備されていきます。パラマウントベッドは、創業・成長時代に結核療養施設の拡充期にタイミングよく遭遇することで、発展の礎を築くことができました。

病院用ベッドは、開発者であるアメリカの外科医の名にちなんでギャッチベッドといえます。戦後、占領軍の払い下げの中古品のギャッチベッドが一時流通しましたが、数が限られているうえ、そもそもわが国の医療事情に適合するものではありませんでした。そこで木村隆輔は、病院を回っては積極的に関係者の意見を聴き、日本の医療システム、日本人の体型や嗜好にあったベッドの開発に取り組み、5種のオリジナル製品を1950年代に開発したのです。



当時の病院用ギャッチベッド

1960年代

国民皆保険の達成と量産体制の確立

わが国の医療保険制度は、1922年の健康保険法の制定に始まりますが、「誰でもいつでもどこでも安心して」医療サービスが享受できる国民皆保険が実現したのは、1961年のこととなります。これを契機に病院の病床は急増し、1960年の686千床から1970年の1062千床へと55%も増加したのです。

こうした状況を背景に1964年、首都圏の千葉県に大規模な工場の建設を決定し、当時の年商相当額の設備投資が行われました。新工場（第一期）は1966年5月に操業を開始。これにより業界で唯一の一貫生産体制による量産工場のもとで、ダントツの生産力を確保することとなります。



我が国初の電動ベッド「KA-45」

1970年代

医科大学新設ブームと活発な新規参入

国民皆保険の達成で医療需要に拍車がかかり、医療従事者の不足が顕在化。戦後長らく医学部定員が抑えられてきましたが、無医大県解消策により全国で続々と医大が新設されました。この時期、すなわち1970年から1984年までに新設された医大は34に及び、現在80あるうちの42.5%を占めます。パラマウントベッドは、新設医大のすべての付属病院に自社製品を納入し、業界における地位を磐石なものとししました。

1973年に老人医療費が「無料化」され、老人の受療率は5割増加。このほか保険給付の大幅な改善が図られ、この年は「福祉元年」とうたわれることとなります。病院用ベッド業界では、医科大学新設ブームや老人医療費「無料



病院用ベッド「KA-500」シリーズ

化しを背景に新規参入が相次ぎ、国内メーカーのみならず外資系企業も参入することで、販売競争は過熱の一途をたどります。このあおりを受けて先発組の専業PARAMOUNTは、日頃の憂き目にあつた企業も出ました。

[会社情報](#)

[製品情報](#)

[知る・学ぶ](#)

[カタログ](#)・[取扱説明書](#)

[ショールーム](#)

[お問い合わせ](#)

1980年代

病院の病床規制と在宅介護用ベッドの開発

1985年に医療法が改正され、「地域医療計画」の作成が全都道府県に義務づけられます。事実上、病院の新設・増床が抑制されました。これにより、戦後一貫して量的成長をつづけてきた医療供給体制は、大きな転換点を迎えることとなります。この後数年は、いわゆる「駆け込み申請」により病院の病床が急増しパラマウントベッドの業績も急伸びしましたが、1992年をピークに病院の病床は漸減しつづけています。

一方、1983年、業界に先駆けて在宅介護用ベッド「アウラ電動ベッド」を開発・上市しました。開発時の基本コンセプトである（1）家具調のデザイン、（2）梱包をいくつかに分け現地組み立て、（3）軽量化、（4）電動式の四点は、現在でも業界標準として定着しています。以後、在宅介護分野においてもパラマウントベッドは、パイオニアとして業界をリードしていくこととなります。1987年にはブランド名であるパラマウントベッドに商号変更し、株式公開を果たしました。



アウラ電動ベッド

1990年代

ゴールドプランとヘルスケア市場の開拓

1990年、「高齢者保健福祉推進10か年戦略」（略称「ゴールドプラン」）が始まりました。今後10年間に国が整備すべき高齢者保健福祉サービス基盤について具体的な数値を掲げたこの画期的な施策により、在宅介護が普及し、高齢者施設が増加しました。パラマウントベッドにとっては、まさに追い風となり、1991年に二代目社長に就任した木村憲司は、施設市場を事業の第一の柱とするならば、在宅市場を第二の柱に育てようと社員に訴えかけました。

木村憲司新社長のもとで、ヘルスケア市場開拓のための施策がつつぎと打たれ、専任の在宅営業チームが全支店で組織されました。また、新製品開発のプロジェクトチームが組織を横断して結成され、2年後、画期的な在宅介護用ベッド「楽匠」が誕生し、初めて全国ネットのテレビCMを実施。1996年には東証一部上場を果たすこととなります。



在宅ケアベッド楽匠

2000年代

介護保険スタートと新規ビジネス

2000年4月、「自立支援」、「利用者本位」、「在宅ケア重視」をキーワードに介護保険制度がスタートしました。2006年の制度変更に伴う混乱等もありながら、利用者は増加。パラマウントベッドはトップメーカーの地位を確保し続けます。

2002年にメンテナンス事業を行うパラテクノ株式会社を設立。2003年に「上質な眠りと健康」をテーマとした新ブランドINTIME（インタイム）を立ち上げ、一般家庭用市場に参入。2007年には福祉用具のレンタル卸事業に参入（現、パラマウントケアサービス株式会社）するなど、従来の医療・介護用ベッドの枠にとらわれない領域にビジネスを拡大し、メーカー事業との相乗効果を狙いました。



INTIME（インタイム）ベッド

2010年代

ホールディングス体制移行とグローバル化の加速

2011年10月、グループ経営基盤の強化とさらなる事業の多角化を目的に、パラマウントベッドホールディングス株式会社を純粋持株会社とするホールディングス体制へと移行しました。

海外事業を強化するため、従来のインドネシア、中国の製造販売拠点に加え、タイ、シンガポール、インド、メキシコ、ベトナム、ブラジルに拠点を設置。市場の拡大が見込まれるアジア・中南米エリアをメインに事業のグローバル化を加速しています。



TOP > 会社情報 > 事業案内

会社情報

事業案内

私たちは病院用ベッドの専門メーカーとしてスタートし、その後、高齢化の進展を背景として、高齢者施設や在宅介護分野にも事業領域を拡大しながら、さまざまな製品を開発してまいりました。近年では健康者向けの快適な睡眠環境提案を中心に展開する健康事業に進出したほか、海外展開についても積極的に推進しております。

医療事業

医療機関のパートナーとして、医療従事者の方々と共に、患者さんの早い社会復帰を実現

救命救急やICUなどの高度急性期や、一般急性期、慢性期、回復期リハビリテーションなどの医療の現場でご利用いただく製品・サービスを提案します。医療従事者の負担を軽減するとともに、痛みや不安を抱える患者さんが少しでも快適で安心いただける療養環境づくりを目指します。



介護事業

ヘルスケア事業者のパートナーとして、介護に携わる方々と共に、皆さまの高いQOLを実現

特別養護老人ホームや老人保健施設などの社会福祉施設、有料老人ホームなどの居住型施設、在宅などで介護される際にご利用いただく製品・サービスを提案します。ご利用者の自立支援、介護される方の負担軽減、福祉用具貸与事業者の皆さまの業務効率化などにつながる製品づくりを推進します。



健康事業

皆さまのパートナーとして、睡眠を中心とした環境提供で、いきいきとした暮らしを実現

当社の研究機関「パラマウントベッド睡眠研究所」では、“睡眠”に関するさまざまな研究にも取り組んできました。睡眠改善をサポートする「Active Sleep（アクティブスリープ）」ブランドの製品を展開し、寝室環境の最適化を通じて健康でいきいきとした暮らしづくりをサポートします。




[会社情報](#)
[製品情報](#)
[知る・学ぶ](#)
[カタログ・取扱説明書](#)
[ショールーム](#)
[お問い合わせ](#)
[TOP](#) > [会社情報](#) > [事業所一覧](#)

会社情報

事業所一覧

パラマウントベッドの事業所・支店・ショールームなどの情報をご覧ください。

本社	支店・ショールーム	工場
パラマウントベッド 眠りギャラリー	海外事務所	グループ会社

本社

本社	〒136-8670 東京都江東区東砂2丁目14番5号 TEL：(03) 3648-1111 (大代) FAX：(03) 3648-3662
----	--

支店・ショールーム

東京支店	〒136-8670 東京都江東区東砂2丁目14番5号 TEL：(03) 3648-1171 (代) FAX：(03) 3648-1178	医療	介護	在宅
札幌支店	〒060-0062 札幌市中央区南2条西13丁目318番地11 TEL：(011) 271-1181 (代) FAX：(011) 271-7282	医療	介護	在宅
仙台支店	〒984-0015 仙台市若林区卸町2-3-3 TEL：(022) 239-5211 (代) FAX：(022) 239-5217	医療	介護	在宅
さいたま支店	〒338-0001 さいたま市中央区上落合9丁目4番7号 TEL：(048) 852-0707 (代) FAX：(048) 852-0701	医療	介護	在宅
横浜支店	〒194-0004 東京都町田市鶴間5丁目3番33号 (旧住所：東京都町田市鶴間1751番地1) TEL：(042) 795-8800 (代) FAX：(042) 788-7019	医療	介護	在宅
名古屋支店	〒461-0001 名古屋市東区泉1丁目20番17号 TEL：(052) 963-0600 (代) FAX：(052) 963-0601	医療	介護	在宅

大阪支店	〒550-0001 大阪市西区土佐堀2丁目3番33号 TEL：(06) 6443-8791 (代) FAX：(06) 6443-9833	医療 介護 在宅
高松営業所	〒761-8031 香川県高松市郷東町223-1 TEL：(087) 881-8900 (代) FAX：(087) 870-5151	医療 介護 在宅
広島支店	〒733-0011 広島市西区横川町3丁目8番5号 TEL：(082) 293-1311 (代) FAX：(082) 293-1393	医療 介護 在宅
福岡支店	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3丁目14番20号 TEL：(092) 461-1131 (代) FAX：(092) 461-1138	医療 介護 在宅
京橋ショールーム	〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目6番1号 三井住友海上テブコビル1階 パラマウントベッド 眠りギャラリーTOKYO TEL：(03) 5250-1501	在宅
メディカル・デザイン・スタジオ 東京	〒113-0033 東京都文京区本郷5丁目28番3号 パラテクノ本社ビル1F	医療
メディカル・デザイン・スタジオ 大阪	〒550-0001 大阪市西区土佐堀2丁目3番33号 パラマウントベッド大阪支店2F	医療
京橋オフィス	〒104-8385 東京都中央区京橋1丁目6番1号 三井住友海上テブコビル10階 財務部直通 TEL：(03) 6228-7120 FAX：(03) 6228-7121 システム統括部直通 TEL：(03) 6228-7125 FAX：(03) 6228-7121	

工場

千葉工場	〒289-1306 千葉県山武市白幡2078番地 TEL：(0475) 82-6111 (代) FAX：(0475) 82-4645
松尾工場	〒289-1537 千葉県山武市松尾町借毛本郷617番地 TEL：(0479) 86-3331 (代) FAX：(0479) 86-3333

パラマウントベッド 眠りギャラリー

パラマウントベッド 眠りギャラリー TOKYO	〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目6番1号 三井住友海上テブコビル1階 TEL：(03) 5250-1515 (代) FAX：(03) 5250-1516
パラマウントベッド 眠りギャラリー SAPPORO	〒060-0062 札幌市中央区南2条西13丁目318番11 TEL：(011) 219-8800 FAX：(011) 219-8808

パラマウントベッド 眠りギャラリー NAGOYA	〒461-0001 名古屋市東区泉1丁目20番17号 TEL : (052) 963-6800 (代) FAX : (052) 963-6801
パラマウントベッド 眠りギャラリー OSAKA	550-0001 大阪市西区土佐堀2丁目3番33号 パラマウントベッド大阪支店内 7階 TEL : (06) 6443-6565 FAX : (06) 6443-6567
パラマウントベッド 眠りギャラリー FUKUOKA	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3丁目14番20号 TEL : (092) 461-0666 FAX : (092) 461-0667

海外事務所

上海事務所	〒200032 上海市徐汇区肇嘉浜路789号均瑶国際広場9B-1 TEL : (021) 5383-5111 FAX : (021) 5383-7111
ドバイ駐在員事務所	Dubai Airport Free Zone 4WA, G10, P.O. Box293552, Dubai, U.A.E. TEL : +971 4 2602 025

グループ会社

主なグループ会社（国内）

パラマウントベッド ホールディングス株式会社	〒136-8671 東京都江東区東砂2丁目14番5号 TEL : (03) 3648-1100 (代) FAX : (03) 3648-3662
バラテクノ株式会社	〒113-8415 東京都文京区本郷5丁目28番3号 TEL : (03) 3813-5522 (代) FAX : (03) 3813-5710
パラマウントケアサービス株式会社	〒130-0012 東京都墨田区太平2丁目9番4号 三洋ビル TEL : (03)6666-3611 (代) FAX : (03)6666-3621

主なグループ会社（海外）

PT. PARAMOUNT BED INDONESIA	MM2100 Industrial Town, Block M-1-1, Export Processing Zone, Cikarang Barat, Bekasi 17520, Jawa Barat, Indonesia
八楽夢床業（中国）有限公司	(Paramount Bed (China) Co., Ltd.) 無錫市無錫国家高新技术産業開発区新梅路A-105
PARAMOUNT BED (THAILAND) CO.,LTD.	1007 Srinakarin Rd., Suanluang, Suanluang, Bangkok 10250 Thailand
PARAMOUNT BED ASIA PACIFIC PTE.LTD.	1 Raffles Place#19-01, One Raffles Place, Office Tower One, Singapore 048616
PARAMOUNT BED INDIA Private Limited.	Plot No.430, Sector-8 , Manesar, Gurugram, Haryana-122050, India

Paramount Bed Mexico S.A. de C.V.	Paseo de la Reforma 243 int 3 Piso 10, Cuauhtemoc,06500 Ciudad de Mexico, Mexico
PARAMOUNT BED VIETNAM CO.,LTD.	Lot H-1, Long Duc Industrial Park, Long Duc Ward, Long Thanh Dist., Dong Nai Province, Vietnam
PARAMOUNT BED VIETNAM TRADING CO.,LTD.	HMC Building, 193 Dinh Tien Hoang Street, DaKao Ward, Dist. 1, Hochiminh City, Vietnam
Paramount Bed do Brasil Ltda.	Rua Maestro Cardim 407, Cj. 702,703,704 e 706, CEP 01323-000 Liberdade, São Paulo, SP, Brasil

会社情報

- 会社概要
- 沿革
- 事業案内
- 事業所一覧
- テクノロジー&ヒストリー
- 5つの安心
- CSR情報
- 投資家向け情報
- 採用情報
- CMギャラリー
- 受賞歴
- アスリート支援活動

製品情報

- 医療施設向け製品
- 製品コード一覧
- 旧製品コード一覧
- 高齢者施設向け製品
- 製品コード一覧
- 旧製品コード一覧
- 在宅介護向け製品
- 製品コード一覧
- 旧製品コード一覧
- 睡眠と健康に関する製品

知る・学ぶ

- 転倒転落対策
- 褥瘡対策
- 早期離床の促進
- 感染対策
- 業務負担軽減
- 認知症ケア
- インテリアプランニング
- クリティカルケア
- 周産期・小児・新生児医療
- 医療・介護トピックス
- 介護の基礎知識

カタログ・取扱説明書

- カタログ・取扱説明書ダウンロード
- マニュアル・動画ダウンロード

ショールーム

- 本社ショールーム
- 札幌ショールーム
- 仙台ショールーム
- さいたまショールーム
- 横浜ショールーム
- 名古屋ショールーム
- 大阪ショールーム
- 高松ショールーム
- 広島ショールーム
- 福岡ショールーム
- 京橋ショールーム
- メディカル・デザイン・スタジオ 東京
- メディカル・デザイン・スタジオ 大阪
- パラマウントベッド 眠りギャラリー TOKYO
- パラマウントベッド 眠りギャラリー SAPPORO
- パラマウントベッド 眠りギャラリー NAGOYA
- パラマウントベッド 眠りギャラリー OSAKA
- パラマウントベッド 眠りギャラリー FUKUOKA

お問い合わせ

- 総合お問い合わせ
- 部品・アフターサポートに関するお問い合わせ
- よくあるご質問

お知らせ

製品に関する重要なお知らせ

イベント情報

パラマウントベッドホールディングス

バラテクノ

パラマウントケアサービス



案件番号
30-C06

排泄モニタリングシステムにより 検知・生成した排泄パターンの適切性の調査

排泄支援

排泄モニタリングシステム Helppad (ヘルプパッド)

機器の概要

一人ひとりに合わせた おむつ交換への変革をサポート

Helppad (ヘルプパッド) は、排泄したことを検知・見える化することで、これまで介護スタッフの経験と勘に頼ってきた排泄ケア計画を標準化し、全員一斉の定時おむつ交換から、一人ひとりに合わせたおむつ交換への変革をサポートするシステムである。これにより、排泄ケアにおける質と業務効率の向上を実現する。

また、介護する方、介護される方、どちらの負担にもならないよう3つの特徴を持つ。

①においセンサーで、おむつを開けずに尿と便を検知

②ベッドに敷くだけ。非装着で使用可能

③排泄検知した記録をデータ化。排泄パターン表を自動生成



排泄モニタリングシステム Helppad (ヘルプパッド)

モニター調査の概要

排泄パターンを取得、その適切性と 運用上のユーザビリティを評価

◆主な評価項目

- ・Helppadにより生成された排泄パターンの適切性
- ・日々の使い勝手や操作性等のユーザビリティ

◆被験者像

自力で離床が不可能なおむつ利用者2名。

◆Helppadの運用手順

本モニター評価にあたり、次の実施を介護スタッフに依頼した。

- ①被験者のベッド上にHelppadを敷き、排泄検知したデータを蓄積すること
- ②おむつ交換後、おむつ内にあった排泄物(尿・便・排泄なし)の事実をベッドサイドに設置したHelppadのスイッチで入力すること
- ③シートが汚れた場合など、必要に応じて洗濯など

を行うこと

なお、おむつ交換はこれまで通りの定時交換のままとし、Helppadの排泄通知に従った随時交換は行わない。現在の業務フローの変更が最小の手順であり、実質的な追加作業は②のみである。このわずかな業務変更という条件で、適切な排泄パターンが取得できるかを検証する。

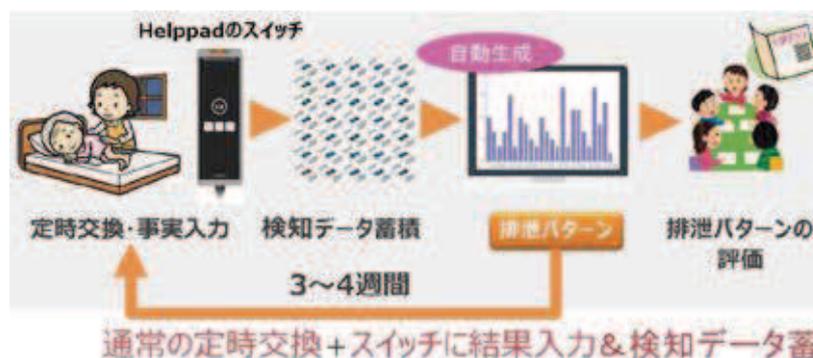
◆排泄パターンの取得

Helppadが排泄検知したデータに基づいて排泄パターン表を生成し、推奨おむつ交換タイミングを示す。

スイッチの入力結果から、現在の定時交換の状況を把握する。

◆日程

- ・上記の運用手順を1/21～2/7で実施し、データを蓄積
- ・得られた排泄パターンやユーザビリティについて、介護スタッフにインタビュー評価



パラマウントベッド株式会社

技術開発本部技術戦略室
〒136-8670 東京都江東区東砂 2-14-5
Tel: (03) 3648-1111 (大代表)
HP: <https://www.paramount.co.jp/>

社会福祉法人シルヴァーウィング

特別養護老人ホーム 新とみ
〒104-0041 東京都中央区新富 1-4-6

モニター調査の結果

PC画面に改善の余地はあるが、得られた排泄パターンの結果や使い勝手には満足

インタビューでは、介護スタッフを代表して介護・ロボット委員会リーダーから以下の評価を伺った。

◆Helppadにより生成された排泄パターン表の適切性

- 排泄検知データから生成した排泄パターン表は、介護スタッフの体感とほぼ一致している印象
- Helppadの推奨と現在の定時の交換タイミングも合い、体感による排泄ケア計画がデータで裏付けられ、安心感を得た
- よって、得られた排泄パターン表は適切であり、これを用いて各自の排泄ケア計画を適正化することは成立するだろう

◆日々の使い勝手や操作性等のユーザビリティ

使い勝手はスタッフにも利用者にも“優しい製品”という評価。

- 利用者の身体には非装着なので負担はない。この事は最も大切
- 最初にベッドに敷くだけでよく、おむつ交換時のスイッチ入力も非常に簡単

PC画面が提供する情報については要改善との評価。

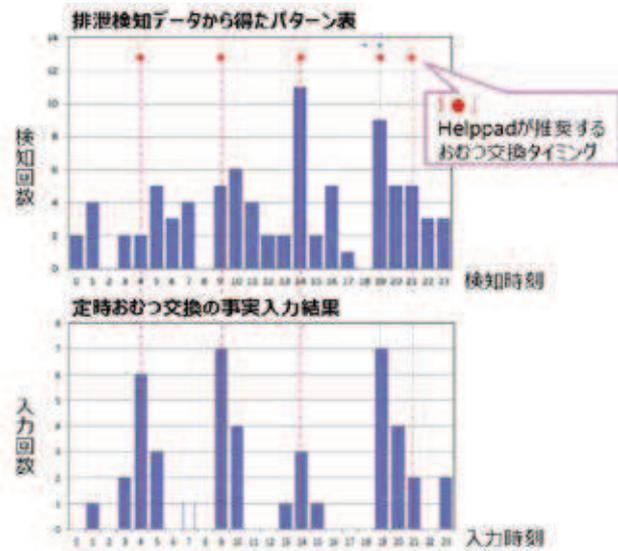
- 画面の情報をどう活用するのか、データの見方や分

析の仕方に解説が必要

- パッと見て必要な情報がどこにあるか、直感的に認識しにくいデザイン
- 総じてPC画面は、介護スタッフ自らが使える情報表示に至っていない

◆今後の改善点

PC画面については未完成であることは自覚しており、以前から検討を行っている。今回得られた評価を参考に、最優先課題として改善を推進する。



モニター調査協力施設の声

スタッフに優しい、使い続けられる福祉用具。今後も継続して利用したい

Helppadは、非常にシンプルに使い、モニター評価しやすい機器であった。当施設では、夜勤は常勤介護職であるが、一部病院勤務明けの非常勤ナースの方に入っている。

そのため、全員にHelppadの操作を徹底できるか不安があったが、簡単に教えられ、問題なく実行できた。使い続けられる福祉用具とは性能の良し悪しだけでなく、Helppadのように介護スタッフに優しい製品であることが大切である。

また、今回のモニター評価では、動きの少ない方を被験者としたが、ある程度動ける方に設置した場合、ポンプやチューブ等をいたずらしてし

**社会福祉法人シルヴァーウィング
特別養護老人ホーム 新とみ**

まうかもしれない。メーカーはその検証と対処方法を確認すると良いだろう。

今回のモニター評価により、Helppadを用いての排泄ケアの業務効率化の可能性が感じられた。PC画面の改善にも期待をしている。今後もサンプルを増やし、継続して使っていくことを希望する。



案件番号
30-C07

タッチパネル液晶モニタ搭載ベッドの見守りセンサ接続時の有用性評価

見守り支援

見守り支援ベッド「エスパシアシリーズ(ベッドナビ搭載)」

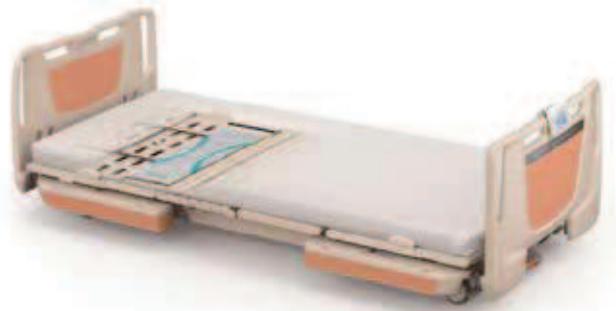
機器の概要

見守りセンサの活用を促進する ベッドシステム

「エスパシア」はタッチパネル液晶モニタ「ベッドナビ」を搭載したベッドである。弊社製品の見守りセンサ「眠りSCAN」を接続して、ベッドサイドで測定結果を簡単に確認できる。多くの見守りセンサは、PC・スマートフォンで操作・閲覧するものであり、端末の持ち歩きや操作の困難さ、教育の手間が機器の定着を妨げる可能性があるが、本システムは、それらの課題を解決する。また、ベッドからセンサへ電源を供給でき、ケーブルに伴うリスク(引掛り、破損)の低減やベッド移動時の負担軽減を図ることができる。

※眠りSCANについては以下を参照。

<https://www.paramount.co.jp/learn/reductionworkburden/nemuriscan>



モニター調査の概要

見守りセンサをベッドシステムに 接続することの有用性を確認

■目的

見守りセンサ「眠りSCAN」を既に使用している施設に「エスパシアシリーズ(ベッドナビ搭載)」を導入し、見守りセンサをベッドシステムに接続したときの以下の有用性を確認する。

- ①ベッドナビに見守りセンサの測定結果を表示する点
- ②ベッドナビの操作性に関する点
- ③ベッドから見守りセンサへ電源供給に関する点

■調査手法

モニター開始時に、介護職員に対しモニター機器の特徴および使い方についての説明会を開催した。

モニター終了時に、介護職員11名に対しアンケート調査とヒアリングを実施した。

アンケートは各質問に対し、5段階の回答とした。

■被介護者の状態と人数

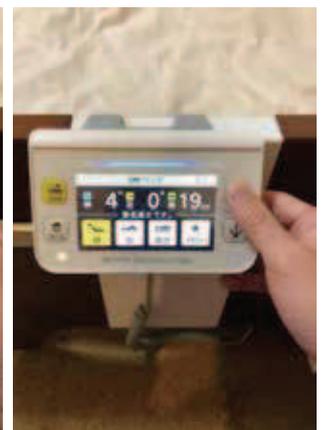
85歳以上で要介護度4以上、自力で歩行ができない方 2名

■実施スケジュール

2019年1月16日～2019年2月15日



センサ表示画面



ベッド操作画面

パラマウントベッド株式会社

技術開発本部要素技術部
〒136-8670 東京都江東区東砂 2-14-5
Tel: (03) 3648-1111 (大代表)
HP: <https://www.paramount.co.jp/>

社会福祉法人 善光会 サンタフェ総合研究所

〒144-0033 東京都大田区東糀谷6丁目4番17号

モニター調査の結果

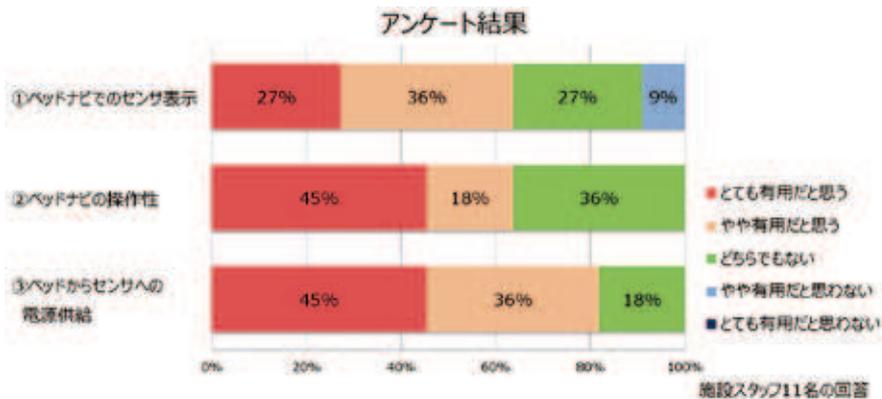
有用性を確認。ベッドから見守りセンサへ電源を供給できる点は現場ニーズにマッチ

①ベッドナビに見守りセンサの測定結果を表示する点
介護職員の方々からは、「入居者さまの前でタイムリーに確認できる」「スマートフォンを取り出す手間が省ける」といった良い意見が得られた。また、「入居者さまのご家族からの感謝」という想定外の評価があった。ご家族の訪問時、ベッドサイドで見守りしている状況をお伝えすることに役立ったというものである。一方、画面サイズ、表示内容の充実、運用ルールに関する要望をいただいた。

②ベッドナビの操作性に関する点
タッチパネル操作と表示内容は直感的に理解できるものであり、マニュアルの確認、教育の繰り返しといった手間がかかることはなかったという意見があり、機器の定着に対する課題は見られなかった。

③ベッドから見守りセンサへ電源供給に関する点
ベッドから見守りセンサへの電源供給は、ベッド周辺のケーブルを減らすことができ、リネン交換時やベッド移動時の配線に対する作業効率化・心配事軽減につながっているという評価をいただいた。機器使用時の職員の不安を取り除くことは運用継続において重要と考える。

モニター後に、“継続して利用したいか?”という質問に対しては、11人中9人が利用継続と回答をいただいた。



モニター調査協力施設の声

**利用者のADLやQOLの向上
介護職員の業務効率化が見込まれる**

エスパシアシリーズ（ベッドナビ搭載）は、施設介護のほとんどの利用者さまのケースにおいて、サービス品質や業務効率の向上が見込まれる機器であると実感した。

利用者さまへの具体的な効果として、スムーズな昇降動作により、端座位等の動作が容易となるとともに、眠りSCANの機能で、睡眠情報等により睡眠時の介入がなく良眠に繋がり、ADLやQOLの向上、精神的負担の軽減等の効果が見込まれる。

介護職員側においては利用者さまの体動をモニターリングできるため、利用者さまの見守りに効力を発揮し、さらに睡眠状況を可視化できるこ

社会福祉法人 善光会 サンタフェ総合研究所

とから、効果的な介助につなげることができる。また、モニターの視認性が良く、インターフェースがわかりやすく設計されているので、直感的に使用できることや、眠りSCANの電源がベッドから取れることで、配線が少なく、シーツ交換や清掃などが容易にできること等も業務効率化につながっている。

